

第七十二日目

師 範：ロシアで、労働者や農民が皇帝を倒して、自分たちの利益を代表する政府をつくり上げたという知らせは、世界の民衆に大きな影響をあたえました。

日本でも、そうでした。

日本政府は、天皇に権力が集中するしくみの国です。社会主義というような思想やそれを実現しようとする運動は、大日本帝国の根本を揺るがすものでしたから、許しませんでした。

ロシア革命が広がらないように、干渉してつぶす考えもありました。

アメリカは日本にシベリアへ出兵するように求めてきました。

日本政府は待ってましたとばかりに、アメリカの求め以上の兵士を出してシベリアへ出兵しました。

このシベリア出兵に必要な米を買い占めるものが現れ、品薄と買い占めでどんどん米価は上がりました。

そこで生活が成り立たなくなった民衆は、米の安売りと売り出しを求めて、米屋を襲うことになりました。米騒動といえます。各地に広まり、軍隊が出てようやくしずめられました。

1918年 米騒動がおこる。

この年を覚えましょう。

ペン太：今度はわたくしが



「騒動へ 行く人はみな 米求め」

「いく」は19、「ひとは」は18です。

師 範：簡単な言葉で、ポイントが言えています。

いいですね。

さようなら

